

日整連、2021年度「自動車特定整備業実態調査」結果の概要を公表

総整備売上高は5年ぶりに前年度比マイナス

日本自動車整備振興会連合会（日整連）はこのほど、令和3年度(2021年度)の「自動車特定整備業実態調査」結果の概要を公表しました。今回の調査結果は2021年6月末時点のデータで、そのうち売上高などは同年6月末時点に最も近い決算期分の数値を基にしています。そのため実質的には2020年4月～2021年3月の実績となります。

それによると、総整備売上高は前年度比1.9%・1,051億円減の5兆5,510億円と5年ぶりに減少しました（表1）。業態別では専業整備工場が同1.5%・290億円増の2兆144億円、自家整備工場が同8.0%・172億円増の2,334億円と前年を上回った一方で、兼業整備工場は同2.7%・183億円減の6,613億円、ディーラーは同4.8%・1,330億円減の2兆6,419億円でした。

作業内容別で全業態合計の売上高を見ると、自家用乗用車が対象となる「2年車検整備」が同3.4%・537億円増の1兆6,487億円、「1年車検整備」が同0.8%・50億円増の6,384億円、「定期点検整備合計」が同2.3%・92億円増の4,164億円と増加した一方、「事故整備」は同

7.7%・805億円減の9,659億円、「その他整備」が同4.7%・925億円減の1兆8,816億円となりました。

法令で実施が義務付けられている車検整備や定期点検整備の売上高は前年を上回りましたが、事故整備やその他整備は大きく減少していました。これは新型コロナウイルス感染拡大の影響による移動自粛や景況感の悪化などを受けたものと考えられます。

また事業場数は、前年度比79事業場減(0.09%減)の91,454事業場で、6年連続の減少（グラフ1）、指定工場数は同2

事業場減となる30,083事業場でした。

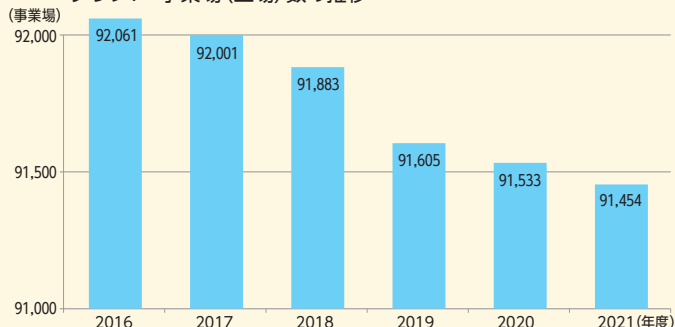
整備関係従業員数は544,670人で、前年度より5,584人(1.0%)増加しています。一方、整備要員数（グラフ2）は398,952人（同266人・0.07%減）で、整備士数は334,319人（同5,274人・1.6%減）でした。また、整備要員平均年齢（自家を除く）は46.4歳で、前年度と比較すると0.7歳上昇しています。多くの業界で人材不足が顕在化する中、自動車整備業界においても技術者の高齢化が大きな課題となつてつあります。

表1 2021年度 自動車特定整備業実態調査結果

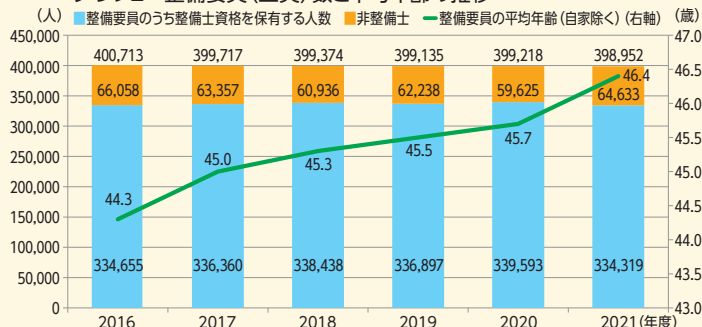
(単位:億円)

業態 \ 作業内容		車検整備			定期点検整備				事故整備	その他整備	合計
		2年	1年	小計	1年	6ヵ月	3ヵ月	小計			
専・兼業	売上高	8,289	4,247	12,536	576	141	423	1,140	4,951	8,130	26,757
	増減額	+92	+81	+173	+49	-12	+77	+114	-10	-170	+107
	増減比	+1.1%	+1.9%	+1.4%	+9.3%	-7.8%	+22.3%	+11.1%	-0.2%	-2.0%	+0.4%
	売上高	5,842	3,586	9,428	403	101	383	887	3,827	6,002	20,144
	増減額	+64	+72	+136	+46	-18	+85	+113	+35	+6	+290
	増減比	+1.1%	+2.0%	+1.5%	+12.9%	-15.1%	+28.5%	+14.6%	+0.9%	+0.1%	+1.5%
兼業	売上高	2,447	661	3,108	173	40	40	253	1,124	2,128	6,613
	増減額	+28	+9	+37	+3	+6	-8	+1	-45	-176	-183
	増減比	+1.2%	+1.4%	+1.2%	+1.8%	+17.6%	-16.7%	+0.4%	-3.8%	-7.6%	-2.7%
ディーラー	売上高	7,556	1,770	9,326	2,272	370	238	2,880	4,253	9,960	26,419
	増減額	+397	-6	+391	-31	+37	-39	-33	-881	-807	-1,330
	増減比	+5.5%	-0.3%	+4.4%	-1.3%	+11.1%	-14.1%	-1.1%	-17.2%	-7.5%	-4.8%
自家	売上高	642	367	1,009	39	44	61	144	455	726	2,334
	売上高	16,487	6,384	22,871	2,887	555	722	4,164	9,659	18,816	55,510
合計	増減額	+537	+50	+587	+3	+46	+43	+92	-805	-925	-1,051
	増減比	+3.4%	+0.8%	+2.6%	+0.1%	+9.0%	+6.3%	+2.3%	-7.7%	-4.7%	-1.9%

グラフ1 事業場(工場)数の推移



グラフ2 整備要員(工員)数と平均年齢の推移



注目を浴びるキャンピングカーが一堂に会する

国内最大級のキャンピングカーイベント「ジャパンキャンピングカーショー 2022」が2月10～13日の4日間、幕張メッセ(千葉県千葉市)で開催されました。

2021年6月に日本RV協会から発表された「キャンピングカー白書2021」では、キャンピングカーの国内総保有台数は、2020年に約12万7千台を突破し、同年

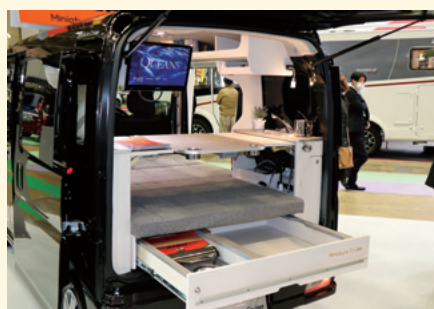
の販売総額も過去最高の約582億円となりました。コロナ禍による医療現場での活用やキャンプブームの到来などによりキャンピングカーの可能性はさらに広がっており、今後も需要拡大が予測されます。

同展示会ではペット同伴可能ということもあり、多くの家族連れが訪れ、来場者は4日間で23,775人でした。



日産自動車

新型キャラバンを「MYROOM CONCEPT」としてカスタム。自分の部屋を切り出すことをイメージし、間接照明やリラックス空間を演出した



岡モータース

ダイハツ・エブリイなど軽自動車をキャンピングカーにカスタマイズするミニチュアクルーズシリーズのほか、アトレーなどの軽キャンパーも披露された



ケイワークス

1台1台家具職人によるハンドメイドで作られているオーロラシリーズ(写真)や、電気供給能力に優れたファイブスターなどを展示



セカンドハウス

ハイエースをラグジュアリーなキャンピングカーにカスタマイズしたウイングスプレミアムは多くの人の注目を集めた



トイファクトリー

燃料電池からの電源供給で、冷凍・冷蔵庫、電子レンジ、IH調理機器などが利用できるキッチンカーのほかキャンピングカー 11台を展示



ナッツ

ボデーをパネル工法にし100kg以上の軽量化をするなどフルモデルチェンジしたクレソソジャーニーなどキャンピングカー 13台をアピール



バンテック

トヨタ・カムロードに、継ぎ目のない一体成形のFRP製「CSボディ」を搭載したキャンピングカーなど11台を展示



ボナンザ

アメリカンRVを中心にベッドやキッチンなどが完備されたキャンピングトレーラーを5台公開したほか、電動バイクなども販売した



ホワイトハウスキャンパー

最大4人の就寝が可能な千葉ロッテマリーンズのイメージをあしらった車中泊用マリーンズキャンパーなど12台のキャンピングカーを公開

新型コロナウイルス感染拡大の影響などにより
自動車保険の支払い件数・金額が減少

損害保険料率算出機構はこのほど、「損害保険料率算出機構統計集」2020年度版を発表しました。同統計は損保料率機構が参考純率または基準料率を算出している、任意自動車保険、火災保険、傷害保険、自動車損害賠償責任保険、地震保険に関するデータについて集計したものです。この中から、任意自動車保険の収支や支払い件数の推移などについて紹介します。

本統計集によると、2020年度の任意自動車保険の収入保険料（グラフ1）は3兆9,340億円（前年度比約570億円・1.5%増）となり、2年連続で前年を上回りました。一方、支払い保険金（グラフ2）は1兆7,068億円（同約2,636億円・13.4%減）となり、2年連続のマイナスでした。

支払い保険金の内訳について補償種目別（表1）を見ると、全種目で支払い件数・保険金が前年度より減少していました。特に車両保険の支払い保険金は約6,278億円で、前年度から1,379億円（18.0%）以上減少しています。

警察庁が発表している交通事故発生件数（グラフ3）を見ると、近年は先進安全技術の進化と普及を受けて年々件数が減少傾向にありましたが、2020年は減少幅が特に大きくなりました。これは新型コロナウイルス感染拡大を受けた移動自粛の影響と考えられます。事故発生件数の減少に伴い、自動車保険の支払い件数・金額も大きく減少したようです。

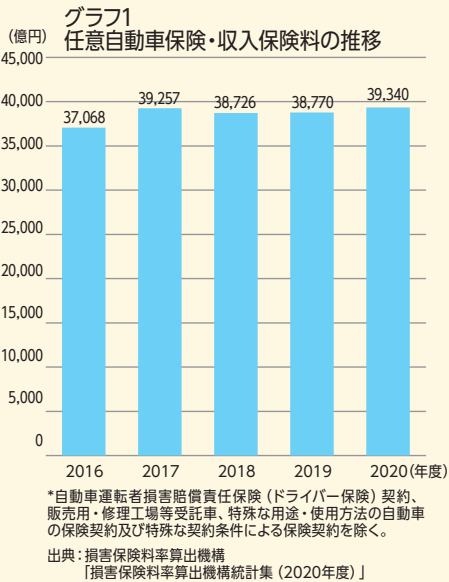
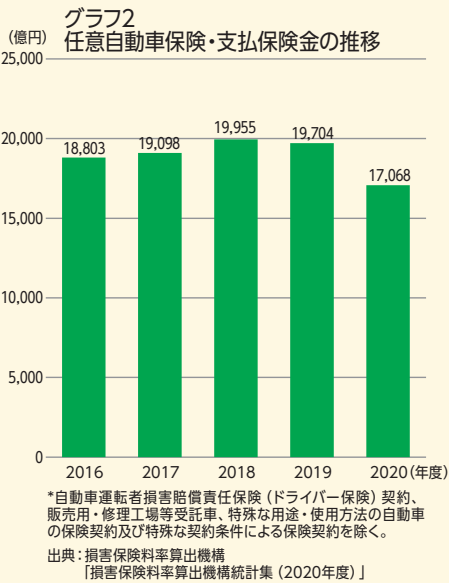


表1 補償種目別推移

補償種目		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
対人賠償	新契約台数（台）	61,563,180	66,443,202	66,611,609	65,992,923	66,189,043
	支払い件数（件）	432,880	417,429	398,749	371,931	315,971
	支払い保険金（千円）	363,648,505	365,644,068	356,225,552	347,278,669	320,502,479
対物賠償	新契約台数（台）	61,485,722	66,374,672	66,552,084	65,937,747	66,148,800
	支払い件数（件）	2,274,438	2,255,357	2,216,806	2,103,689	1,795,471
	支払い保険金（千円）	687,057,710	690,947,954	692,719,018	675,297,233	592,400,991
搭乗者傷害	新契約台数（台）	23,123,216	23,083,887	22,500,260	21,854,931	21,810,015
	支払い件数（件）	305,002	282,701	263,481	249,279	206,362
	支払い保険金（千円）	45,726,186	41,495,112	37,921,016	35,355,281	30,387,526
人身傷害	新契約台数（台）	55,725,665	60,721,795	61,176,039	60,843,383	61,166,182
	支払い件数（件）	285,022	297,223	315,169	302,454	261,336
	支払い保険金（千円）	158,624,616	157,578,588	152,273,588	146,759,188	135,694,957
車両	新契約台数（台）	34,771,990	38,269,549	39,013,698	38,949,548	39,306,393
	支払い件数（件）	2,126,677	2,156,366	2,271,817	2,194,183	1,868,209
	支払い保険金（千円）	625,239,825	654,141,012	756,381,643	765,736,970	627,814,317

出典：損害保険料率算出機構「損害保険料率算出機構統計集（2020年度）」



NGP 今月のCO₂削減量

リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和4年1月： **2,175t**

リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和4年1月： **0.5t**

*自動車リサイクル部品産業共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含む）115品目を対象に算出した数値です。

*リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員 かわら版

ファッションデザイナー・川西氏とコラボレーション

西川商会、使用済みエアバッグから ファッションアイテムをアップサイクル

NGP組合員の(有)西川商会（鳥取県鳥取市、西川正克社長）は、使用済み自動車から取り外したエアバッグを利用して、洋服などのファッションアイテムを製作しました。

使用済み自動車のリサイクル率は非常に高い数字を誇りますが、エアバッグやシートはおもに助燃剤として利用されており、素材としての活用はほとんどされてきませんでした。鳥取県出身のファッションデザイナー・川西遼平氏の協力を得て約3年前にスタートした本プロジェクトでは、(有)西川商会が取り外したエアバッグを活用して、裁断から縫製まですべて鳥取県内で行い、洋服などの製品にアップサイクルさせる仕組みを構築しています。

(有)西川商会の西川朋宏専務は「使用済み自動車から取り外すエアバッグはそのほとんどが未使用で、人の手に触れられないまま役目を終えます。耐久性や防火性にすぐれたエアバッグを素材として活用して、アップサイクルできないかと考えました」と、本プロジェクトを計画した経緯を説明しています。

洋服などのデザインを担当した川西氏は「ファッション業界でもサステナブルに対する意識は高まっています。今回のプロジェクトの相談を受けたとき、日本の経済発展を支えてきた自動車の処理にデザインで貢献できるという点に興味を持ちました。デザインにおいては、若い子たちが普段着られる洋服にしたいと考え、あまり凝ったものにならないよう心がけています。今後もこの取り組みを継続し、さらに作品のクオリティを上げて

いきたいです」と、本プロジェクトに対する思いを述べています。

2月9・10日には東京都内で自動車及びアパレル業界の関係者を招いた展示会を開催し、今回のプロジェクトで製作した全9アイテムを披露しました。また(有)西川商会は、各製品の受注受け付けも開始しています。西川専務は「一般の方に自動車リサイクルのことをもっと知ってもらうために、今後も各種取り組み

を継続していきます。一方で、自動車業界の皆様にも今回製作した洋服をご利用いただき、環境配慮に対する業界全体の意識をアピールする一助となれば幸いです」と、今後の展望を示しました。

NGPは今後も、SDGsに向けて組合全体で取り組むとともに組合員各社の活動を支援し、持続可能な社会の実現に貢献して参ります。



(有)西川商会・西川朋宏専務（左）とファッションデザイナー・川西遼平氏



東京都内で開催された展示会の会場風景



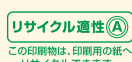
エアバッグからアップサイクルされたファッションアイテム

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<https://www.ngp.co.jp/>



ZERO®
CO₂
PRINT



FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、再生可能エネルギー 100%で印刷。印刷会社が所有する施設や車両、購入した電力などエネルギーの製造時に排出される CO₂ 全量をカーボンオフセット（相殺）した「CO₂ ゼロ印刷」で印刷しています。